

## オンライン講座 日本史をにぎわせた女性たち II

テーマ : 「落城に始まり落城に終わる 淀の方」

日時 : 2023年2月14日

講師 : 林和清先生

当日参加受講生: 21名(在籍30名) 再視聴あり

永禄12年(1569)父浅井長政、母お市の方の長女として近江・小谷城に生まれます。織田信長の妹お市の方(母)は美貌の持ち主で、淀殿は母親似の美人だったそうです。慶長20年5月8日(1615)没

### 一度目の落城

天正元年(1573)父長政が信長に敵対し攻められ小谷城が落城。その後母・二人の妹と共に叔父織田信包のもとで保護されます。5歳

### 二度目の落城

天正10年(1582)本能寺で信長が明智光秀に殺された年に母は柴田勝家と再婚し、親子は北庄城に入ります。その後秀吉と養父勝家が対立し、天正11年(1583)の賤ヶ岳の戦いで勝家が敗北し、勝家とお市の方は自害、三姉妹は豊臣秀吉の保護を受けるようになります。15歳

### 秀吉の側室に

妹たちが他家へ嫁いだ後、天正16年(1588)頃、秀吉の側室になります。三姉妹の中で最もお市の方の美貌を受け継いでいたためと言われています。翌年、懐妊し長



豊臣秀頼

男捨(鶴松)を生み、その際淀城を賜ったため以降「淀の方」と呼ばれるようになります。しかし鶴松は2年後に亡くなります。文禄2年(1593)に捨(秀頼)が生まれると、秀吉は後継として扱っていた関白の甥・秀次を謀反の疑いで出家させ、切腹させます。その際秀次の側室たちも三条河原ですべて殺されたそうです。秀頼はその身長の高さや秀吉出兵中の淀殿の懐妊だったため、秀吉

の本当の子供ではなく、淀殿の乳母・大蔵卿の子・大野治長が本当の父では・・とされているそうです。

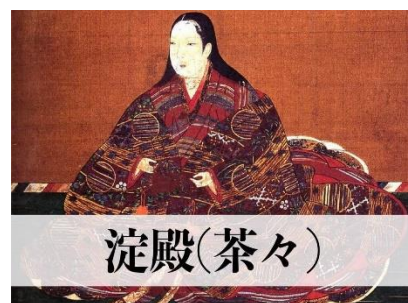
### 秀吉の死後と関ヶ原合戦

慶長3年(1598)死期が近いことを悟った秀吉は徳川家康ら五大老と五奉行を集め秀頼への忠誠を誓わせます。しかし秀吉の死後、家康と石田光成の対立をきっかけに関ヶ原の戦いとなり東軍が勝利します。「中立」を建前としていた秀頼・淀殿は大阪城に家康を招きもてなします。戦後、豊臣家の領地は激減します。

### 大坂の陣・三度目の落城

慶長19年(1614)豊臣家が再建していた方広寺の梵鐘の銘文が家康を呪詛しているとみなされ、弁明に向かった片桐且元の妥協案を淀殿は拒否し、且元を裏切者として扱います。この処分を根拠に家康が挙兵。「淀殿と秀頼を人質に取らない代わりに、大阪城の外堀を埋める」ことを条件に和議に持ち込みます。ところが外堀に加えて家康に内堀も埋め

られた大阪城は内通者により放たれた火で落城し、淀殿は秀頼と共に自害します。その後、淀殿は感情論に振り回され、大坂の陣では「戦況を読み違え豊臣家を滅ぼした悪女」との評価が定着します。(担当:口村)



淀殿(茶々)

<母:お市の方>

